

2012年2月20日

株式会社アネロファーマ・サイエンスに対する米国での臨床試験実施のための追加出資について

今般、株式会社産業革新機構（以下「INCJ」）（東京都千代田区丸の内、代表取締役社長 能見公一）は、株式会社アネロファーマ・サイエンス（以下「アネロファーマ」）（東京都中央区日本橋蛸殻町、代表取締役 三嶋徹也）の第三者割当増資を引受け、今後の治験等の必要資金 22 億円（最大金額）の追加出資（以下「本追加出資」）を行うことを決定しました。

INCJ では、初回の投資により非臨床試験の推進を支援してまいりましたが、このたび、上市に向けての目的意識を共有した学界の全面的な協力体制の下、治験開始に必要な不可欠な非臨床試験の着実な実行、製薬企業水準の適切な科学データおよび知財の創出と管理、治験担当医師等との粘り強い対話、完成度の高い申請書類の作成、厳格な予実管理、さらには、これらを束ねる適切な経営管理体制の構築といったアネロファーマの自助努力により、当初の想定よりも早期に IND 申請に至ったものです。本追加出資は、アネロファーマが今後実施する Phase I / II 試験（薬剤の安全性、忍容性、および、有効性を検討するための臨床試験）の費用等に充当される予定です。

本追加出資はアネロファーマに対する新薬開発の各ステップにおける必要資金額に応じた段階的な出資決定に基づくものです（2010年11月1日付ニュースリリース参照）。なお、本追加出資は、アネロファーマが開発中の新規抗がん剤 APS001F（ビフィズス菌を用いたドラッグデリバリーシステムを活用した薬剤）に関する米国 FDA に対する IND 申請（新薬臨床試験開始届）の通過を受けたものであり、INCJ として初めてのバイオベンチャーへの追加出資となります。なお、INCJ の追加出資額の最大 22 億円は、アネロファーマの既存株主等から追加出資の要望が出た場合には、出資額を減額する可能性があります。

INCJ は、本投資を通じて、治験等に必要な資金を供給するとともに、人材・企業に対する外部ネットワーク等を活用し、円滑かつ確実な治験推進及び製薬企業における技術活用を支援します。これにより、大学発技術を活用したバイオベンチャーと製薬企業との医薬品開発におけるオープンイノベーションを推進します。

さらに、本投資を日本のバイオベンチャーに対する資金供給の呼び水とし、日本における創薬の再活性化を目指します。

株式会社アネロファーマ・サイエンスについて

株式会社アネロファーマ・サイエンスは、2004年8月に設立され、「嫌気性（anaerobic, アネロ）」をキーワードに、現在の医療では治療が極めて困難ながん（再発・転移性）も含めた幅広い種類のがんに適応でき、かつ副作用の少ない抗癌剤の開発を目指しています。株式会社アネロファーマ・サイエンスについての詳細は <http://www.anaeropharma.co.jp/> をご参照ください。

- ・ 設 立 : 2004年8月9日
- ・ 所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目5番5号 塩田ビル本館2F
- ・ 代 表 : 代表取締役 三嶋徹也
- ・ 資本金 : 1億円 (2012年2月14日現在)
- ・ 従業員 : 18名

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJは、2009年7月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約2兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJは、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、同社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

INCJでは、これまでに合計21件・総額約3,550億円の投資決定を発表しました。当面、環境エネルギーにも関連するエレクトロニクスやITの分野、バイオ・ライフサイエンス分野、水ビジネス等インフラ関連分野などにおいて、知財ファンドによる先端的な基礎技術の事業展開、ベンチャー企業等の事業拡大、技術等を核とした事業の再編・統合、海外企業の買収等による積極的な海外展開などに対してハンズオン投資を行ってまいります。

(本発表資料のお問い合わせ先)

株式会社 産業革新機構 企画調整室 檜山 望月 小林
東京都千代田区丸の内1-6-5
電 話 : 03-5218-7200 (大代表)

株式会社アネロファーマ・サイエンス
東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目5番5号 塩田ビル本館2F
電 話 : 03-5642-8081 (大代表)

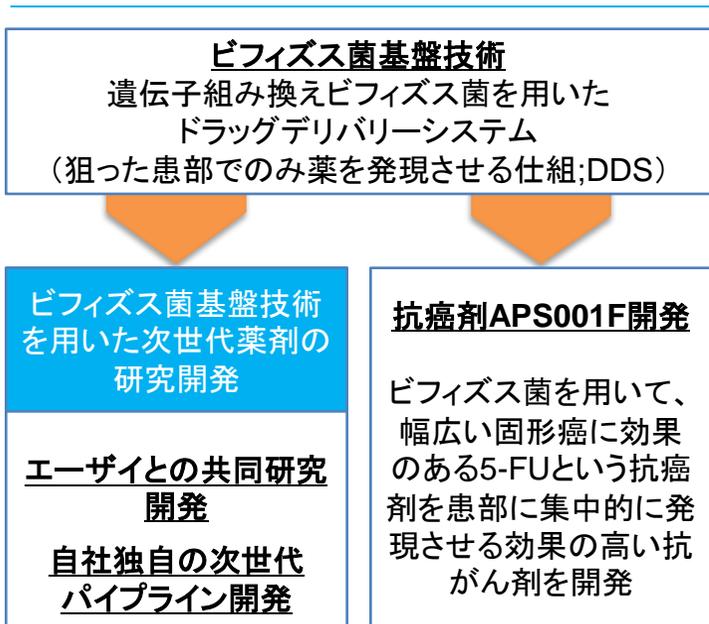
【別紙①】アネロファーマ・サイエンスの概要

当社は、信州大学発のビフィズス菌を用いたドラッグデリバリーシステム(狙った患部へ薬剤を送達させる仕組;DDS)を基盤技術として保有。

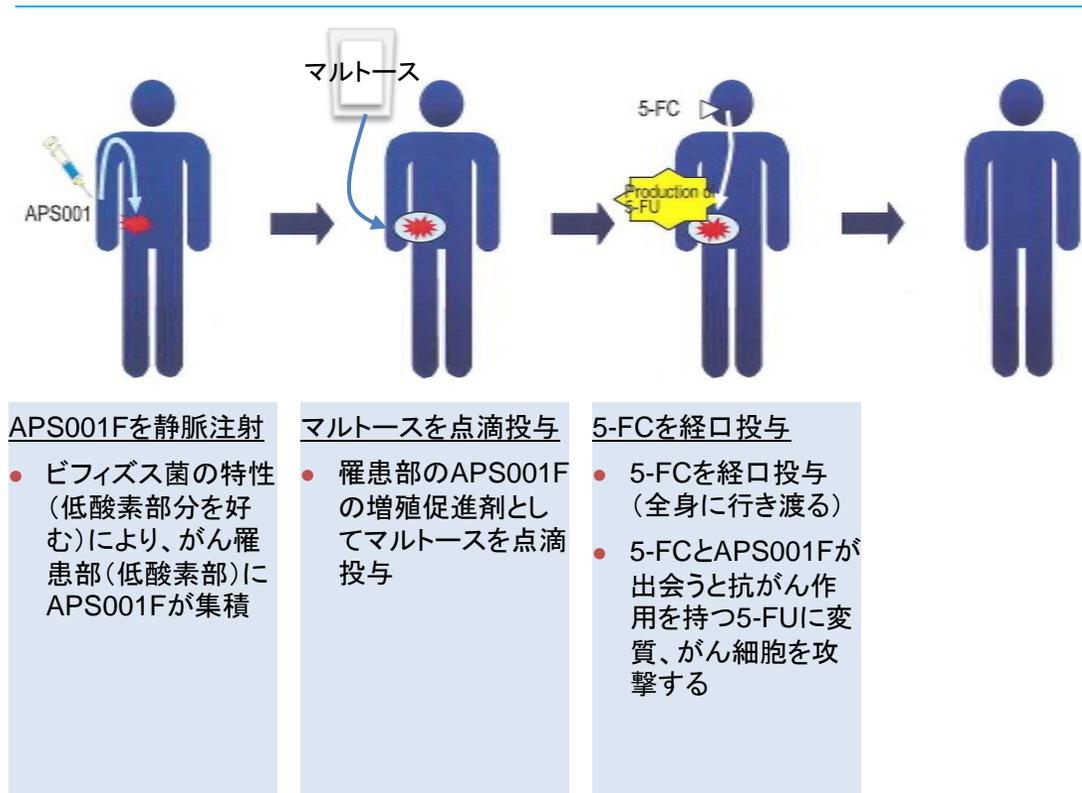
今春から、この技術を活用した画期的な抗がん剤APS001Fの臨床試験を米国で行う。さらに、ビフィズス菌基盤技術を活用した新規物質の探索研究をエーザイと共同ならびに自社で実施しており、会社の精力的な研究開発を、産学官で後押しする。

- ✓ 一般的に抗がん剤は正常細胞も攻撃するため、全身投与する場合の副作用が強い。一方、罹患部のみで抗がん作用が発現するAPS001Fは副作用(人体への負担)が既存薬よりも軽いものと推測される。
- ✓ APS001Fが、がん罹患部にのみ集積するため、通常では実現不可能な高濃度の5-FU(抗がん活性体)をがん罹患部でのみ発現することができる。
- ✓ なお、APS001Fの抗がん活性の本体となる5-FUは、多くの固形がんに適応される代表的な抗癌剤のひとつ。

当社の技術概要



開発薬(APS001F)の概要



【革新性】

- 5-FU以外の物質をビフィズス菌に組み込み、効果が高く、かつ副作用の弱い、新しい抗がん剤を創出する可能性